

夏号 (NO.8) 平成30年7月1日

「生長の家教義」研修講座

第12回 札幌会場

これまでの受講者1,000名を超える!!



札幌の時計台



講義—み教えが正しく歪みなく説かれる



真剣に受講する参加者

谷口雅春先生のみ教えの全相を、正しく体系的に学ぶ — われら、住吉大神の使命実現へ!!

第1回から第12回まで ご講義くださった講師の先生

- | | |
|-------|-------|
| 安東 巖 | 講師 |
| 森田 征史 | 講師(故) |
| 松下 昭 | 講師(故) |
| 阪田 成一 | 講師 |
| 前原 幸博 | 講師 |
| 貢 正一 | 講師 |
| 久保 文剛 | 講師 |
| 花田 研 | 講師 |
| 栗野 真弘 | 講師 |
| 國弘 昭義 | 講師 |
| 上野 耕治 | 講師 |

全国のブロック別講師数

ブロック名	任命された講師数
北海道	16
東北	11
首都圏	83
北陸	9
東海	29
近畿	19
中国	50
四国	15
九州	37
計	269

(裏面につづく)

平成25年に第1回東京会場から始まったこの研修は、福岡、神戸、再び東京、仙台、名古屋、三度東京、香川、大阪、熊本とめぐり、いよいよ北海道へ。去る6月29日〜7月1日、札幌会場に於いての開催となりました。札幌、旭川、帯広、小樽などの各地から、又、広島や神奈川からの参加者もあり68名の受講者が結集。遂に受講者は第1回から数えて1,000名を超えました(1,049名)。

この三日間にわたる研修では「谷口雅春先生の歩まれし道」「生長の家の「神観」と住吉大神の使命」「神観の本義」「三界唯心所現の原理」「先祖供養の本義」「天皇后日本の本義」「生長の家社会事業団の使命と谷口雅春先生の憲法論」等、生長の家教義の全相を体系的に学びました。

この札幌会場では、花田研講師の生長の家の「神観」講義が加わり、花田講師は住吉大神の七つの働きについて詳しく次のように説明されました。

「住吉大神は日本国の運命の重大な節々に出現され、日本国を導き救うと谷口雅春先生はお書き

くださっています。歴史を振り返ると次の七つのことがあります。一、天照大御神の御誕生。二、瓊瓊杵尊の御降臨。三、彦火火出見尊の龍宮界への御降下。四、神武天皇の建国。五、神功皇后の三韓征伐。六、大東亜戦争。そして七つ目は、谷口雅春先生に天降り給い、生長の家の御教えの宣布がなされたことです。そのことを尊師は次のようにお書きになられています。

『住吉大神は、日本の運命の重大な節々に出現して、日本をお護りになる「天照大御神の御心」でありますから、現在、日本国は非常な危機に臨んでいるので、取敢えず私に御教えを宣布するよう仰せられたのであります。』

谷口雅春先生は、「取敢えず・・・」とご謙遜されていますが、住吉大神から特に選ばれて「天照大御神の御心」が天降り生長の家の「鎮護国家」のお働きとなっているのです。

この住吉大神の使命を学ぶなか、私達は何を為すべきか、自覚した研修となり、最終日には講師申請者が15名、誌友会、母親教室の開設決意が5名、「七十年記念事業」献資者10名が誕生。喜びあふれる研修となりました。

受講者のよろこびの声

自分がやらなければこのみ教えは消えてしまうという思いで！



旭川市 井川 映里

「谷口雅春先生の歩まれし道」のご講義で谷口先生が苦しみ、求められた中でやっとつかみ取られた真理がどれほど深く尊いものか思い知りました。又、二日目の「先祖供養」のご講義を受け、先ずは先祖の月命日をカレンダーに書いて、霊牌供養、永代供養の先祖供養をしようと思いました。

この三日間の研修を受け、初めて生長の家のみ教えにふれた時の感動がよみがえり、更に深く『生命の真相』を勉強し、実践していきます。

このみ教えは、自分がやらなければ消えてしまうという思いに立ち、これからの運動をしていきたいと思えます。旭川で「母親教室」を立ち上げます。

谷口雅春先生のみ教え一筋と

心に決めました！



札幌市 池田 睦美

講義の間に聖歌や体操を入れていただき気持ちよく楽しくなりました。聖歌の旋律と歌詞が心に染



スクラム組んで「高校生連盟の歌」大合唱

み渡り、ふるさとに帰ってきたような懐かしい思いがしました。特に「高校生連盟の歌」を40年ぶりに歌い、生高連時代に蘇ってきて涙が溢れました。

又、このような深いご講義を受けるのは初めてでした。この研修に参加するまでは、現教団に所属しておりました。しかし、研修で「生長の家の神観」と「天皇后日本」のご講義を受け、谷口雅春先生のみ教えを一筋にやってみると心に決めました。講師を申請させていただきます。

ピアノ教室の子どもと

お母さん達に伝えます！



札幌市 佐藤 文子

本当に感動の連続で涙がとまりませんでした。聖歌先導をさせていただきました。歌のときは泣きそうでした。

た。日本の国の素晴らしさ、天皇様をいただいている日本の一員である事に心から嬉しくなりました。私は子ども達にピアノを教えているのですが、そのことを子ども達にもっと伝えていこうと思えます。そして、子ども達のお母さんを集めて母親教室を開催したいと思えます。献資もさせていただきます。

1年間患っていたおできが消えた！

神奈川県 木田 弘昭

実はこの研修で不思議なことがありました。一年ほど前、左のお尻に手のひらの半分くらいの大きなおできが出来ました。そのうち治るだろうと、医者にも行かなかったのですが、段々悪くなってきて座ることもできないくらいに痛くて、お尻を半分浮かして座るようなことでした。それでこの4月から病院に行き治療をうけているのですが、なかなか治らなくて。

今回、神奈川から来て、29日から研修がはじまりました。29日の夜、札幌の弟の家に泊まったのですが、帰って触ってみたらそのおできが何もないんです。自分でもびっくりして、こんなことがあるのかなと思ひ、よくよく触ったら、固いしこりみたいなものが膨れあがって真っ黒になっていたのですが、そのしこりが柔らかくなって、三日間座っていても全然痛くなく過ごすことが出来ました。

この研修は相当な感動で、講師になると決意し、神奈川に帰ったら誌友会に力を入れて頑張っていきます。

Q 谷口雅宣総裁の実相を覗いて正しくしていることはできませんか？

A こういうご質問を受けて感じるの、この「正す」という捉え方です。私たちに、谷口雅春先生のみ教えを換骨奪胎して全くちがう教えを説いている谷口雅宣総裁を正そうという思いはないのです。

谷口雅宣総裁の「今の教え」が素晴らしいと思ふ信徒もいますが、私たちは総裁の教えは尊師・谷口雅春先生の教えと全く違うとして教団をやめた訳です。違うのに、そこにいることは信仰者としてあるべき姿ではないと判断したからです。

そして今の今、尊師の教えを歪めず、あやまず、後世に伝え遺す使命に立たなければこの尊い教えが消えてしまう。その危機感をもってここに集っているわけです。尊師の教えを学ぶことがどれだけ魂が悦ぶか。その喜びの輪を如何にして広げていくか、そこに私たちの関心はあります。

なるほど、私たちは、総裁の言動に対して、批判を呈しています。しかしそれは、一にかかって、それが如何に尊師の教えと違っているか。それを明らかにするためにこそやっていることなのです。それでなければ、なぜ、私たちが教団を離れたのか、そしてなぜ今、このような研修をやっているのか説明しえませんか。

敢えて、「正す」ということに拘るならば、総裁の実相を祈って正していくというより、私たちの信仰の喜びの輪を広げることをもって、総裁、並びに教団のまちがいに對して異議申立をしていく。その方が、本来の「生長の家」を取り戻す上で、より効果的で、かつ実際的であると思ひます。

全参加者の研修 質疑応答の「1」マ

トピック ニュース

